



郵政博物館  
研究紀要

郵政歴史文化研究会編

# 郵政博物館 研究紀要

平成27年度 第7号 (2016年3月)



平成27年度 第7号 (2016年3月)

## 表紙解説

『郵便取扱の図』（郵政博物館所蔵）柴田真哉<sup>(1)</sup>筆

### 第十三図 集配出発時の点検

外務員の出発時には厳しい点検があった。同図が制作された明治17年から、制帽は饅頭笠と呼ばれる丸笠に改められたほか、襟やズボンから赤いラインがなくなるなど創業時とは異なっている。左上腕部には、胸章にあたる番号牌という番号表示の札を付けた。

### 第十四図 夕暮れ時の配達

薄暮の中、手提灯器で表札を確認しながらの配達風景である。灯器は鉄板製で、正面にはガラスがはめ込まれた仕様になっている。灯火にはろうそくや種油を使用した。

当時の郵便配達の便数は多く都市部においては10便程度あったところもあり、図のように日暮れの後の配達も行われていた。

---

1 『郵便取扱の図』については、『郵政博物館研究紀要』（創刊号、2010年）表紙裏解説を参照。